

県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方  
に関する検討会議

(第3回)

日時：平成30年2月16日(金)

10:00～

会場：岩手県公会堂 21号室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 県外からの志願者の受入れのあり方について

(2) 通学区域のあり方について

4 そ の 他

5 閉 会



## 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議 設置要綱

(設置)

第1 新たな県立高等学校再編計画の推進に当たり、ふるさと振興の観点等から学校の魅力づくりを推進する地域の取組を踏まえ、生徒の多様な受入れのあり方について検討するため、県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議（以下「会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2 会議は、次の事項について検討を行い、岩手県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告する。

- (1) 県外からの入学志願者の受入れのあり方に関する事
- (2) 現状と課題を踏まえた通学区域のあり方に関する事
- (3) その他定員を充足するためのあり方に関する事

(組織等)

第3 会議は、委員15名以内をもって組織する。

2 会議の委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 教育関係団体の役職員
- (3) 市町村教育長
- (4) 産業関係者
- (5) その他委員として適当と認められる者

(任期)

第4 委員の任期は、第2に掲げる検討が終了するまでとする。

2 欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5 会議に、委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第6 会議は、必要に応じて委員長が招集する。

2 委員長は、必要があるときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第7 会議の庶務は、岩手県教育委員会事務局学校調整課において処理する。

(補則)

第8 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成29年4月24日から施行する。



# 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議

## 委員名簿

(50音順)

氏名	所属・職名等	備考
阿部 徹	岩手県立盛岡工業高等学校長	
五十嵐 のぶ代	岩手県PTA連合会 会長	
伊藤 晃二	宮古市教育委員会 教育長	
金田 一文紀	岩手県教職員組合 書記長	
久慈 竜也	株式会社久慈設計 代表取締役社長 岩手県産業教育振興会 理事	
佐々木 秀市	岩手県高等学校教職員組合 書記長	
高橋 清之	盛岡市立下橋中学校長 岩手県中学校長会 会長	
田代 高章	岩手大学教育学部 教授	
千葉 祐悦	金ヶ崎町教育委員会 教育長	
土川 敦	岩手県立一関第一高等学校長 岩手県高等学校長協会 副会長	
渡辺 正和	岩手県高等学校PTA連合会 会長	

## 事務局

所 属 ・ 役 職	氏 名
教育長	高 橋 嘉 行
教育次長	岩 井 昭
学校教育課 首席指導主事兼総括課長	中 島 新
学校調整課 総括課長	小 久 保 智 史
学校教育課 首席指導主事兼高校教育課長	佐 藤 有
学校調整課 高校改革課長	藤 澤 良 志
学校教育課 高校教育担当 主任指導主事	中 村 智 和
学校教育課 高校教育担当 主任指導主事	佐 藤 守
学校教育課 高校教育担当 主任指導主事	上 野 光 久
学校教育課 高校教育担当 指導主事	菊 地 健
学校調整課 高校改革担当 主任指導主事	村 山 薫 美
学校調整課 高校改革担当 主査	梅 澤 貴 次
学校調整課 高校改革担当 指導主事	宇 夫 方 聰
学校調整課 高校改革担当 指導主事	市 丸 成 彦

## 県外からの志願者の受入れのあり方について

第2回検討会議においては、県外からの志願者の受入れのあり方について、志願者受入れの効果、課題、課題への対応等を中心に議論を深めていただき、今後は、県外からの志願者を受け入れることを前提に検討いただくことで了解いただきました。

そこで、第3回検討会議では、**県内の志願者の学ぶ機会の確保に配慮しながら、受け入れる際の条件等を設定するため、第2回検討会議でお示しした、下記2「課題を解決し、効果を高めるために、どのようなことが必要か」ということを基本に、引き続き議論を深めていただきたいと考えております。**

※ 第2回検討会議の資料No. 2の「3 今後の方向性」を再掲 【参考資料No. 1、No. 2】

### 1 県外からの志願者の受入れの効果や課題として、どのようなことが考えられるか

#### (1) 考えられる効果

- ア 県外から学ぶ意欲の高い生徒が入学することにより、高校の活性化につながる
- イ 県外から入学する生徒との交流をとおり、県内の生徒が刺激を受け、地域の魅力を再認識
- ウ 県外から入学した生徒が、本県の自然や文化、地域の取組等に魅力を感じ県外で発信することで、本県の魅力を全国に知ってもらうきっかけになる
- エ 県外から入学する生徒の家族等を含め、交流人口の拡大や移住等につながり、地域が活性化

#### (2) 考えられる課題

- ア 一律に受入れを認めると県内の生徒が学ぶ機会を失う可能性がある
- イ 保護者に代わって生徒を保護する者が必要となる
- ウ 生徒を受け入れる生活環境等の整備が必要となる

### 2 課題を解決し、効果を高めるために、どのようなことが必要か

- (1) 入学できる学校、学科等を指定する（ふるさと振興に取り組む地域の学校、特色ある学科 等）
- (2) 入学できる生徒を一定数とする（募集定員の一定割合、受け入れる人数 等）
- (3) 入学する生徒の保護者に代わる身元引受人がいることとする（近隣の市町村に居住する親族、市町村が紹介する里親 等）
- (4) 入学する生徒が安心して生活できる住居等が整備されていることとする（寮や下宿等がある、毎日の食事が保証されている 等）





## 通学区域のあり方について

新たな県立高等学校再編計画の策定に係る地域等からの意見では、**通学区域の維持（他学区への生徒の流出を防止）・見直し（生徒の学校選択の機会を拡大）双方の意見**がありました。また、平成29年に実施したアンケートでは、全ての対象（高等学校長、中学校長、高校・中学校PTA）において、「**地域の状況によって、学区や学区外の取扱いを見直した方がよい**」とする回答が多い結果となりました。

今回は、現行の通学区域の維持あるいは見直しに関して、これまでに指摘があった効果・課題を踏まえ、今後の通学区域のあり方について議論を深めていただきたいと考えております。

### 1 通学区域について

#### (1) 通学区域の定義

通学区域とは、特定の高等学校への入学者志願者の過度の集中を避け、高等学校教育の機会の均等を図り、生徒の就学、通学の適正を図るための区域である。

#### (2) 本県の通学区域

ア 通学区域の指定は、一般入学者選抜の普通科について行っており、平成16年度から、現在の8つの通学区域としている。

イ 普通科のうち、盛岡南高校（体育コース）、不来方高校（体育学系、芸術学系、外国語学系）、花巻南高校（スポーツ健康科学学系、国際科学学系）、西和賀高校（福祉・情報コース）は全県一区としている。

ウ 普通科においても、1学年定員の10%の範囲内で学区外からの生徒の受入れは可能としている。ただし、一般入試の志願者数が募集定員を超えない場合は、学区外許容率を超えて入学を許可することができる。

エ 専門学科及び総合学科は全県一区としている。

【参考資料No.3】

#### (3) 学区外からの志願者の状況

一般入試の志願者数が募集定員を超え、かつ、学区外許容率（募集定員の10%）を超える出願があった高等学校は、平成29年度入試においては2校、平成28年度入試においては1校であった。なお、平成27年度入試においては該当がなかった。

【参考資料No.4】

#### (4) 全国の状況

ア 学区を設定しているのは22道府県、設定していないのは25都府県となっている。

イ 東北6県において学区を設定しているのは、本県のほか、山形県及び福島県である。

【参考資料No.5、No.6、No.7】

### 2 今後の通学区域のあり方

#### (1) 通学区域に関する意見交換等の取組

ア 県民との意見交換（今後の高等学校教育の基本的方向の改訂に係る意見交換会等 平成26年5月～平成27年2月）

生徒の学校選択の機会拡大の観点から学区の撤廃を求める意見や、地域外への生徒の流出防止の観点等から学区の維持を望む意見等、様々な意見があった。

イ 市町村教育委員会（33市町村）との意見交換（平成29年7月～8月）

「現在の学区を維持した方がよい」とする意見が9件、「全県一区とした方がよい」とする意見は5件、その他の意見及び意見なしが19件であった。

ウ アンケート調査結果（県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート  
ト 平成 29 年 8 月～9 月） 【参考資料No.8】

- (ア) すべての対象（高等学校長、中学校長、P T A（高校）、P T A（中学校））において、「地域の状況によって、学区や学区外の取扱いを見直した方がよい」とする回答が全体の 5 割程度であった。
- (イ) 「現在の学区を維持した方がよい」とする回答と、「全県一区とした方がよい」とする回答については、ともに全体の 1～3 割程度であった。
- (ウ) P T A（中学校）は、「全県一区とした方がよい」とする回答が 3 割程度で、中学校長及び P T A（高校）は 2 割に満たなかった。

(2) これまでに指摘があった効果・課題

ア 現行の通学区域を維持した場合に考えられる効果や課題

(ア) 効果

- a 地域外への生徒の過度の流出を制限することにより、地域を担う人材を地域で育むことができる
- b 過度な受検競争と学校間格差を抑えることができる

(イ) 課題

- a 自由な学校選択の機会の保障が難しい
- b 学校の魅力を生かした全県からの生徒募集の弊害となる
- c 交通機関等の発達により通学可能な範囲が拡大し、現行学区と生徒のニーズが一致しなくなっている

イ 現行の通学区域を見直した場合に考えられる効果や課題

(ア) 効果

- a 自由な学校選択が可能となり、生徒のニーズに対応できる
- b 学校の魅力を生かした生徒募集がより一層可能となる

(イ) 課題

- a 中央部の一部の高校に志願者が集中することが懸念される
- b 他地区への生徒の流出が進み、学力の地域格差が生じることも懸念される

# 参 考 資 料

- 参考資料No. 1 高校規模別の入学者及び部の設置等の状況
- 参考資料No. 2 全国募集を実施している高校・学科等の例
- 参考資料No. 3 通学区域の状況及び高校配置に関する地区割と県立高等学校等の配置
- 参考資料No. 4 普通科における一般入試の学区外志願者数
- 参考資料No. 5 通学区域に関する全国の状況
- 参考資料No. 6 通学区域を設置していない都府県における通学区域廃止の経緯等
- 参考資料No. 7 通学区域を設置していない都府県における通学区域廃止の影響
- 参考資料No. 8 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート



高校規模別の入学者及び部の設置等の状況

〔1学年1学級規模の高校〕 5校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況									部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
			平成27年度			平成28年度			平成29年度			
			合 格 者 数	過 剰 者 数	不 足 者 数	合 格 者 数	過 剰 者 数	不 足 者 数	合 格 者 数	過 剰 者 数	不 足 者 数	
大迫	普通	40	32	▲ 8	33	21	▲ 19	21	22	▲ 18	22	☆硬式野球、弓道、◇バレーボール、ソフトテニス、登山、自転車、吹奏楽、学芸、JRC
花泉	普通	40	37	▲ 3	37	41	▲ 1	47	35	▲ 5	35	☆硬式野球、☆弓道、☆バスケットボール、バドミントン、◇音楽、◇茶道、総合文化
住田	普通	40	40	0	41	33	▲ 7	34	33	▲ 7	33	☆硬式野球、◇バレーボール、◇ソフトテニス、☆バスケットボール、陸上、アーチェリー、音楽、吹奏楽、パソコン
宮古北	普通	40	18	▲ 22	18	27	▲ 13	31	27	▲ 13	29	☆サッカー、☆卓球、バドミントン、総合運動、◇茶道、◇華道、写真、◇吹奏楽、美術・芸術など、総合文化
伊保内*	普通	(80)40	37	(▲43)	37	28	(▲52)	28	31	▲ 9	33	☆硬式野球、弓道、バレーボール、ソフトテニス、卓球、☆バスケットボール、吹奏楽、美術・芸術など、郷土芸能

※ 伊保内高校は、平成29年度から募集定員が40人となった。

〔1学年2学級規模の高校〕 13校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況									部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
			平成27年度			平成28年度			平成29年度			
			合 格 者 数	過 剰 者 数	不 足 者 数	合 格 者 数	過 剰 者 数	不 足 者 数	合 格 者 数	過 剰 者 数	不 足 者 数	
沼宮内	普通	80	42	▲ 38	43	29	▲ 51	29	42	▲ 38	42	☆硬式野球、剣道、☆サッカー、◇ソフトテニス、卓球、◇バスケットボール、囲碁将棋、音楽、◇茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など
葛巻	普通	80	48	▲ 32	48	41	▲ 39	41	51	▲ 29	51	☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、◇ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、柔剣道、郷土芸能、ビジネス研究
雫石*	普通	80	49	▲ 31	51	39	▲ 41	42	25	▲ 55	25	☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、スキー、☆ソフトテニス、☆バスケットボール、バドミントン、陸上、軽音楽、◇茶道、◇華道、コンピュータ、郷土芸能
西和賀**	普通	40	15	▲ 25	15	32	▲ 8	35	20	▲ 20	24	☆硬式野球、◇バレーボール、◇ソフトボール、卓球、バドミントン、陸上、ボート、吹奏楽、美術・芸術など
	福祉・情報コース	40	10	▲ 30	11	12	▲ 28	11	9	▲ 31	8	
前沢	普通	80	47	▲ 33	48	42	▲ 38	44	41	▲ 39	42	☆硬式野球、◇バレーボール、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、バドミントン、☆ウエイトリフティング、茶道、吹奏楽、美術・芸術など、総合文化、JRC
遠野緑峰	生産技術	40	40	0	40	35	▲ 5	35	32	▲ 8	32	☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、陸上、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、馬事研究
	情報処理	40	18	▲ 22	18	18	▲ 22	19	16	▲ 24	17	
大槌**	普通	(120)80	81	(▲39)	83	71	(▲49)	74	67	▲ 13	71	☆硬式野球、弓道、柔道、サッカー、◇バレーボール、◇ソフトテニス、☆卓球、バスケットボール、バドミントン、科学（自然科学）、書道、吹奏楽、美術・芸術など、OA、インターアクト
山田	普通	80	50	▲ 30	50	34	▲ 46	35	27	▲ 53	30	ボート ☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、◇ソフトテニス、◇バスケットボール、陸上、空手、☆相撲、茶道、華道、書道、吹奏楽、パソコン
岩泉	普通	80	59	▲ 21	59	50	▲ 30	50	48	▲ 32	50	☆硬式野球、弓道、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、卓球、◇バスケットボール、陸上、ボクシング、吹奏楽、美術・芸術など、家庭研究、郷土芸能
久慈工業	電子機械	40	16	▲ 24	16	9	▲ 31	9	19	▲ 21	19	ウエイトリフティング ☆硬式野球、☆柔道、☆ラグビー、ソフトテニス、卓球、☆バスケットボール、吹奏楽、美術・芸術など、工学研究、料理
	建設環境	40	34	▲ 6	35	30	▲ 10	30	23	▲ 17	23	
大野	普通	80	57	▲ 23	57	44	▲ 36	44	30	▲ 50	30	卓球 ☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、バスケットボール、科学（自然科学）、吹奏楽、総合文化
軽米	普通	80	58	▲ 22	58	48	▲ 32	48	45	▲ 35	45	☆硬式野球、剣道、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、◇音楽、書道、吹奏楽、美術・芸術など
福岡工業	機械システム	40	36	▲ 4	36	38	▲ 2	38	29	▲ 11	29	弓道 ☆硬式野球、柔道、☆サッカー、☆ラグビー、☆卓球、☆硬式テニス、☆バスケットボール、総合文化
	電気情報システム	40	25	▲ 15	25	35	▲ 5	35	28	▲ 12	28	

※1 雫石高校、※2 西和賀高校は、平成30年度から募集定員が40人となる。※3 大槌高校は、平成29年度から募集定員が80人となった。

〔1学年3学級規模の高校〕 11校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況									部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
			平成27年度			平成28年度			平成29年度			
			合 格 者 数	過 剰 者 数	不 足 者 数	合 格 者 数	過 剰 者 数	不 足 者 数	合 格 者 数	過 剰 者 数	不 足 者 数	
平舘	普通	80	74	▲ 6	74	58	▲ 22	59	54	▲ 26	54	スキー ☆相撲 ☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、卓球、登山（山岳）、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、演劇、茶道、華道、吹奏楽、美術・芸術など、◇家庭
	家政科学	40	27	▲ 13	27	26	▲ 14	26	17	▲ 23	17	
花巻農業	生物科学	40	41	▲ 1	47	39	▲ 1	39	40	0	41	ボクシング ☆硬式野球、弓道、柔道、◇バレーボール、ハンドボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バドミントン、陸上、茶道、華道、吹奏楽、美術・芸術など、鹿踊り
	環境科学	40	42	▲ 2	48	31	▲ 9	33	40	0	49	
	食農科学	40	41	▲ 1	42	41	▲ 1	42	41	▲ 1	45	
水沢農業**	農業科学	40	31	▲ 9	31	30	▲ 10	30	28	▲ 12	30	☆硬式野球、剣道、☆サッカー、◇バレーボール、◇ソフトテニス、卓球、☆バスケットボール、バドミントン、陸上、ボクシング、自転車、乗馬、茶道、吹奏楽、民族舞踊、インターアクト、芸術文化
	環境工学	40	15	▲ 25	15	16	▲ 24	18	14	▲ 26	14	
	生活科学	40	32	▲ 8	32	22	▲ 18	22	17	▲ 23	17	
水沢商業	商業	40	37	▲ 3	37	33	▲ 7	31	41	▲ 1	45	☆硬式野球、◇弓道、◇バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、茶道、吹奏楽、美術・芸術など、ワープロ、珠算電卓
	会計ビジネス	40	40	0	40	40	0	45	40	0	36	
	情報システム	40	25	▲ 15	25	42	▲ 2	48	40	0	40	
金ケ崎	普通	120	115	▲ 5	129	97	▲ 23	101	91	▲ 29	92	☆硬式野球、弓道、剣道、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、吹奏楽、美術・芸術など、
宮古工業	機械	40	35	▲ 5	35	21	▲ 19	23	29	▲ 11	29	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ラグビー、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、美術・芸術など、工作
	電気電子	40	12	▲ 28	12	18	▲ 22	18	17	▲ 23	17	
	建築設備	40	20	▲ 20	20	23	▲ 17	28	18	▲ 22	18	
宮古水産	海洋技術	40	24	▲ 16	24	33	▲ 7	43	21	▲ 19	25	☆硬式野球、◇弓道、柔道、◇バレーボール、ソフトテニス、◇卓球、バスケットボール、◇バドミントン、ボクシング、マリンスポーツ、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、太鼓、パソコン、料理手芸、インターアクト
	食品家政	40	24	▲ 16	24	34	▲ 6	38	24	▲ 16	24	
	食物	40	27	▲ 13	27	40	0	43	38	▲ 2	38	
種市**	普通	80	52	▲ 28	53	46	▲ 34	46	32	▲ 48	32	レスリング ☆硬式野球、バレーボール、ソフトテニス、卓球、◇バスケットボール、◇バドミントン、陸上、語学・国際理解など、茶道、吹奏楽、家庭、情報処理
	海洋開発	40	31	▲ 9	33	34	▲ 6	34	32	▲ 8	34	
一戸	総合	120	69	▲ 51	70	72	▲ 48	72	100	▲ 20	100	☆硬式野球、◇弓道、剣道、柔道、バレーボール、◇ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、なぎなた、音楽、科学（自然科学）、茶道、華道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、華一

※1 水沢農業高校、※2 種市高校は、平成30年度から募集定員が80人となる。

[1学年4学級規模の高校] 6校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況									部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
			平成27年度			平成28年度			平成29年度			
			合 格 者 数	過 不 足 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総 受 検 者 数	
花北青雲	情報工学	40	35	▲ 5	31	41	1	43	42	2	55	☆硬式野球、柔道、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バドミントン、陸上、吹奏楽、文芸・文学研究など、珠算、 OA、工学研究、商業研究、P F S C
	ビジネス情報	80	84	4	94	84	4	92	84	4	107	
	総合生活	40	42	2	45	42	2	38	41	1	57	
水沢工業	機械	40	40	0	42	40	0	42	35	▲ 5	35	ボクシング ☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ハンドボール、☆ラグビー、ソフトテニス、卓球、☆登山（山岳）、☆バ スケットボール、陸上、吹奏楽、美術・芸術など、機械工作、無線・情報、新聞
	電気	40	33	▲ 7	33	30	▲ 10	28	26	▲ 14	27	
	設備システム	40	40	0	45	26	▲ 14	29	35	▲ 5	36	
	インテリア	40	39	▲ 1	36	37	▲ 3	37	38	▲ 2	39	
一関工業	電気	40	37	▲ 3	39	41	1	43	27	▲ 13	28	☆硬式野球、弓道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、☆ラグビー、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、写 真、美術・芸術など、無線、放送、情報技術研究、工学研究、生活
	電子	40	32	▲ 8	30	40	0	41	31	▲ 9	32	
	電子機械	40	40	0	44	41	1	47	33	▲ 7	36	
大東	土木	40	30	▲ 10	32	40	0	51	29	▲ 11	37	☆硬式野球、弓道、☆サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、演劇、音楽、茶 道、華道、吹奏楽、美術・芸術など、ワープロ、アニメイラストマンガ、鹿踊り
	普通	120	93	▲ 27	93	99	▲ 21	99	78	▲ 42	78	
	情報ビジネス	40	34	▲ 6	35	35	▲ 5	35	27	▲ 13	28	
遠野	普通	160	142	▲ 18	142	130	▲ 30	130	140	▲ 20	141	☆硬式野球、弓道、剣道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、バスケットボール、◇バドミントン、陸上、音楽、◇茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、商業、邦楽、理研
宮古商業	商業	40	40	0	45	40	0	46	39	▲ 1	39	ヨット レスリング ☆硬式野球、剣道、柔道、◇サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、◇卓球、バスケットボー ル、陸上、茶道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、J R C、家政、ワープロ、インターアクト、商業研究、太鼓
	会計	40	36	▲ 4	30	34	▲ 6	31	28	▲ 12	26	
	流通経済	40	40	0	39	40	0	39	40	0	43	
	情報	40	40	0	45	40	0	38	39	▲ 1	40	

[1学年5学級規模の高校] 14校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況									部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
			平成27年度			平成28年度			平成29年度			
			合 格 者 数	過 不 足 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総 受 検 者 数	
盛岡第二	普通	200	204	4	265	200	0	207	203	3	217	バレーボール、ハンドボール、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、体操（新体操）、なぎ なた、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽。文芸・文学研究など、美術・芸術など、箏曲、マンドリ ン・ギター、生物、J R C
盛岡農業	動物科学	40	38	▲ 2	36	42	2	51	42	2	62	スケート ☆硬式野球、弓道、柔道、☆サッカー、☆バレーボール、スキー、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、登山（山岳）、バスケット ボール、バドミントン、陸上、☆相撲、自転車、囲碁将棋、演劇、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など
	植物科学	40	38	▲ 2	29	40	0	38	40	0	43	
	食品科学	40	42	2	60	42	2	57	42	2	48	
	人間科学	40	42	2	44	42	2	48	40	0	37	
環境科学	環境科学	40	40	0	40	40	0	36	42	2	51	
	総合	200	171	▲ 29	175	166	▲ 34	166	177	▲ 23	184	自転車 ☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボー ル、陸上、囲碁将棋、演劇、音楽、◇茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、文化研究、イラスト、郷土芸能、理科研究
花巻南	人文科学・自然科学	120	123	3	152	123	3	142	123	3	140	☆硬式野球、弓道、剣道、☆サッカー、◇バレーボール、ハンドボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、 体操（新体操）、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、茶道、華道、◇書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、家庭、J R C、合 唱、日本音楽
	スポーツ健康科学	40	40	0	41	42	2	57	38	▲ 2	34	
	国際科学	40	39	▲ 1	20	40	0	37	40	0	31	
岩谷堂	総合	200	200	0	205	198	▲ 2	199	148	▲ 52	148	ウエイトリフティング ☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケット ボール、バドミントン、陸上、語学・国際理解など、演劇、茶道、華道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、ワープロ、アニメーション、鹿踊り、J R C、家庭
千厩	普通	120	109	▲ 11	109	117	▲ 3	120	101	▲ 19	101	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、☆登山（山岳）、バスケットボール、バドミ ントン、陸上、ボクシング、演劇、音楽、茶道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、箏曲
	生産技術	40	35	▲ 5	36	38	▲ 2	38	39	▲ 1	40	
	産業技術	40	32	▲ 8	32	31	▲ 9	31	33	▲ 7	33	

[1学年5学級規模の高校] (つづき)

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況									部の設置状況 (同好会等を含む) ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
			平成27年度			平成28年度			平成29年度			
			合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	
高田	普通	160	149	▲ 11	149	164	4	167	131	▲ 29	134	☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、音楽、茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、パソコン、JRC、家政
	海洋システム	40	15	▲ 25	15	15	▲ 25	18	12	▲ 28	12	
大船渡*	普通	200	200	0	200	175	▲ 25	175	200	0	200	☆硬式野球、弓道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、空手、囲碁将棋、演劇、音楽、科学(自然科学)、茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、パソコン、報道、JRC
大船渡東	農芸科学	40	20	▲ 20	21	14	▲ 26	15	21	▲ 19	14	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ラグビー、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、茶道、華道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、太鼓、ロボット、インターアクト、ビジネス
	機械	40	41	1	41	30	▲ 10	31	16	▲ 24	17	
	電気電子	40	23	▲ 17	23	15	▲ 25	15	18	▲ 22	18	
	情報処理	40	23	▲ 17	23	37	▲ 3	37	26	▲ 14	24	
	食物文化	40	39	▲ 1	39	24	▲ 16	26	40	0	48	
釜石	普通・理数	200	173	▲ 27	174	185	▲ 15	187	160	▲ 40	160	☆硬式野球、弓道、剣道、サッカー、バレーボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、ボクシング、空手、囲碁将棋、音楽、科学(自然科学)、華道、吹奏楽、美術・芸術など
釜石商工*	機械・電子機械	80	47	▲ 33	51	57	▲ 23	57	51	▲ 29	52	◇なぎなた ☆硬式野球、弓道、☆サッカー、バレーボール、☆ラグビー、ソフトテニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、空手、◇茶道、◇華道、写真、吹奏楽、美術・芸術など、ワープロ、工業
	電気電子	40	9	▲ 31	10	10	▲ 30	11	6	▲ 34	7	
	総合情報	80	44	▲ 36	46	71	▲ 9	71	62	▲ 18	62	
久慈	普通	200	182	▲ 18	195	181	▲ 19	183	168	▲ 32	168	☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ハンドボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、◇バドミントン、陸上、演劇、音楽、科学(自然科学)、茶道、吹奏楽、美術・芸術など、マンドリン
久慈東	総合	200	195	▲ 5	196	192	▲ 8	192	196	▲ 4	196	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、囲碁将棋、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、チアダンス、コンピュータ、手芸
福岡	普通	200	171	▲ 29	171	194	▲ 6	196	184	▲ 16	184	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、茶道、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、百人一首、理科研究

※1 大船渡高校は、平成30年度から募集定員が160人となる。 ※2 釜石商工高校は、平成30年度から募集定員が120人となる。

[1学年6学級規模の高校] 11校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況									部の設置状況 (同好会等を含む) ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
			平成27年度			平成28年度			平成29年度			
			合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	
盛岡北	普通	240	243	3	251	243	3	345	241	1	294	☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、体操(新体操)、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学(自然科学)、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、家庭研究
盛岡南	普通	160	160	0	182	164	4	206	164	4	221	スキー 登山(山岳) バスケットボール 陸上 ボクシング ☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、☆ラグビー、水泳、◇ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、硬式テニス、バドミントン、☆体操(新体操)、◇音楽、☆科学(自然科学)、軽音楽、茶道、写真、書道、◇吹奏楽、美術・芸術など、家庭、放送演劇
	体育コース	40	39	▲ 1	44	42	2	58	42	2	66	
盛岡商業	体育	40	41	1	46	42	2	54	42	2	60	☆サッカー ☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、バレーボール、ハンドボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、☆軟式野球、華道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、商業研究、ワープロ、情報処理研究
	流通ビジネス	80	82	2	95	80	0	141	82	2	109	
	会計ビジネス	80	84	4	116	80	0	101	82	2	101	
盛岡商業	情報ビジネス	80	82	2	105	81	1	93	81	1	90	陸上 ☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、アーチェリー、囲碁将棋、語学・国際理解など、科学(自然科学)、軽音楽、茶道、写真、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、放送、合唱
	普通	240	245	5	265	235	▲ 5	239	245	5	262	
黒沢尻北	普通	240	240	0	277	240	0	251	241	1	290	ラグビー ☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、卓球、登山(山岳)、バスケットボール、バドミントン、陸上、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学(自然科学)、軽音楽、◇茶道、◇華道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、放送、応援
北上翔南	総合	240	241	1	251	240	0	242	212	▲ 28	212	陸上 ☆硬式野球、◇弓道、剣道、☆サッカー、バレーボール、◇ハンドボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、体操(新体操) フェンシング、語学・国際理解など、演劇、音楽、◇茶道、写真、書道、文芸・文化研究など、美術・芸術など、家庭、器楽、パソコン、JRC、鬼剣舞、イラスト

[1学年6学級規模の高校] (つづき)

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況									部の設置状況 (同好会等を含む) ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
			平成27年度			平成28年度			平成29年度			
			合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	
黒沢尻工業	機械	40	40	0	42	40	0	52	40	0	44	部の設置状況 (同好会等を含む) ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。 弓道、ボクシング、ボート ☆硬式野球、剣道、柔道、☆バレーボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、卓球、硬式テニス、☆登山 (山岳)、☆バスケットボール、バドミントン、陸上、軟式野球、囲碁将棋、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、無線、編集、ボランティア、コンピュータ
	電気	40	28	▲12	28	40	0	41	40	0	46	
	電子	40	33	▲7	32	38	▲2	35	40	0	48	
	電子機械	40	31	▲9	31	40	0	42	40	0	39	
	土木	40	37	▲3	39	40	0	46	40	0	54	
	材料技術	40	22	▲18	20	39	▲1	43	38	▲2	40	
水沢	普通・理数	240	245	5	265	244	4	255	238	▲2	239	ウエイトリフティング ☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、サッカー、バレーボール、ハンドボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、卓球、☆登山 (山岳)、バスケットボール、バドミントン、陸上、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学 (自然科学)、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、フォークロック
一関第一	普通・理数	240	232	▲8	233	245	5	247	242	2	269	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、登山 (山岳)、バスケットボール、バドミントン、陸上、軟式野球、囲碁将棋、語学・国際理解など、音楽、軽音楽、茶道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、生物、競技歌留多、パソコン
一関第二	総合	240	242	2	293	240	0	276	217	▲23	224	フエンシング ☆硬式野球、弓道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、語学・国際理解など、演劇、音楽、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、理科学研究、JRC、太鼓道場、商業研究
宮古	普通	240	220	▲20	221	208	▲32	208	205	▲35	206	ヨット ☆硬式野球、剣道、柔道、サッカー、バレーボール、☆ラグビー、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、ボート、空手、音楽、茶道、華道、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、生物、放送

※ 一関第二高校は、平成30年度から募集定員が200人となる。

[1学年7学級規模の高校] 5校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況									部の設置状況 (同好会等を含む) ☆男子のみ ◇女子のみ ※ 網掛けは、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
			平成27年度			平成28年度			平成29年度			
			合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 者 数	総 受 検 者 数	
盛岡第一	普通・理数	280	284	4	355	282	2	370	282	2	330	陸上、登山 (山岳) ☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ハンドボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、☆軟式野球、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、軽音楽、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、物理、化学、生物、天文
盛岡第三	普通	280	284	4	354	285	5	425	286	6	419	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、☆ラグビー、水泳、スキー、ソフトテニス、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、◇体操 (新体操)、ボート、空手、スケート、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学 (自然科学)、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など
盛岡第四	普通	280	280	0	357	283	3	349	287	7	365	陸上 ☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、水泳、◇ソフトボール、卓球、硬式テニス、登山 (山岳)、バスケットボール、バドミントン、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学 (自然科学)、茶道、華道、書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、弦楽、バトントワリング
不来方	人文・理数	160	156	▲4	160	163	3	226	161	1	237	弓道、ホッケー、ハンドボール、カヌー ☆硬式野球、剣道、柔道、サッカー、バレーボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、卓球、◇硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、空手、語学・国際理解など、演劇、音楽、軽音楽、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、工芸
	芸術	40	35	▲5	36	40	0	50	40	0	62	
	外国語	40	40	0	43	41	1	56	40	0	58	
	体育	40	41	1	49	40	0	63	40	0	53	
盛岡工業	機械	40	40	0	49	40	0	45	40	0	54	☆ラグビー、ウエイトリフティング、アーチェリー、レスリング、スケート ☆硬式野球、柔道、バレーボール、水泳、ソフトテニス、卓球、硬式テニス、☆登山 (山岳)、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、演劇、茶道、華道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、無線、化学、マイコン、天文、自動車、ギター、土木、機械、メカトロ、電気、建築、工業化学、デザイン
	電気	40	41	1	49	40	0	42	40	0	49	
	電子情報	40	40	0	45	40	0	48	40	0	53	
	電子機械	40	40	0	43	38	▲2	38	40	0	52	
	工業化学	40	41	1	35	38	▲2	30	40	0	43	
	土木	40	40	0	54	40	0	46	40	0	52	
	建築・デザイン	40	40	0	55	40	0	53	40	0	55	



全国募集を実施している高校・学科等の例

通学区域等の状況に係る調査結果(平成29年10月 県教委実施)  
対象：都道府県教育委員会(回答率100%)

都道府県	学校名 (県立省略)	学科名	学科の 募集定員	全国募集 開始年度	県外からの志願者数等の推移			全国募集の規模	全国募集の条件
					H27	H28	H29		
秋田	全ての県立高校 及び秋田市立秋 田商業高校	全学科	高校ごと	H17	1.07倍 全日制	1.01倍 (〃)	1.00倍 (〃)	・ 各学科の募集定員の5%を上限 (前期選抜)	—
福島	川口高校	普通科	70	H14	41*	50*	37*	県外からの志願者も含め た、全体の志願者数	・ 学区内に身元引受人が居住すること。
	南会津高校	普通科	70	H14	46*	52*	50*		
	只見高校	普通科	70	H14	40*	36*	47*		
	ふたば未来学園高校	総合学科	160(H27:120)	H27	152*	142*	155*		・ 県内に身元引受人が居住すること。
茨城	大子清流高校	農林科学科	40	H20	0	2	1	—	・ 学科に対する目的意識が強く、入学日までに身元引受人がいること
	海洋高校	海洋技術科	40	H20	1	0	1		
		海洋食品科	40	H20	0	0	0		
		海洋産業科	40	H20	0	0	1		
	大洗高校	普通科音楽コース	40	H20	18	15	11		
	真壁高校	環境緑地科	40	H28	—	0	1		
栃木	日光明峰高校	普通科	120(H30:80)	H28	—	5	2	・ 募集定員の20%以内	・ アイスホッケー、スピードスケート競技での活躍を目指す者
	馬頭高校	水産科	25	H11	2	0	2		—
新潟	新潟中央高校	音楽科	40	H25	0	0	0	・ 上限なし	—
	新津工業高校	工業マイスター科	40	H25	0	0	0		
		日本建築科	30	H25	0	0	1		
	国際情報高校	国際文化科	80	H25	0	0	4		
		情報科学科	80	H25	0	0	0		
	八海高校	体育科	40	H7	1	3	1		
	海洋高校	水産学科	80	H11	5	16	20		
新発田農業高校	農業科	160	H11	0	0	0			

都道府県	学校名 (県立省略)	学科名	学科の 募集定員	全国募集 開始年度	県外からの志願者数等の推移			全国募集の規模	全国募集の条件
					H27	H28	H29		
新潟 (つづき)	長岡農業高校	農業科	160	H11	0	1	1	・ 上限なし	—
	加茂農林高校	農業科	200	H11	0	0	0		
	高田農業高校	農業科	160	H11	0	0	0		
長野	飯山高校	スポーツ科学科	40	H4	2	4	5	—	・ 同学科へ志願を強く希望し、かつ入寮する場合
	白馬高校	国際観光科	40	H28	—	13	18		・ 同学科へ志願を強く希望する場合
滋賀	信楽高校	総合学科	80	H26	4	4	2	・ 5人まで	・ 信楽地域の伝統産業に関わるセラミック・デザインに強い興味・関心があり、将来に対する目的意識が明確な者
奈良	山辺高校	普通科（生活文化コース）	40	H27	0	0	2	・ 募集人員の10%を上限とする。	・ 馬術部、ライフル射撃部に所属し、選手として3年間継続して活動する意欲のある者
		生物科学科	37	H27	0	1	1		
	御所実業高校	環境緑地科	37	H27	3	3	3		・ ラグビー部に所属し、選手として3年間継続して活動する意欲のある者
		機械工学科	74	H27	4	7	7		
		電気工学科	37	H27	3	3	3		
		都市工学科	37	H27	3	3	3		
		薬品科学科	37	H28	—	3	2		
	H28	—		3	3	・ 薬品科学科に対して強い目的意識がある者			
	榛生昇陽高校	普通科（人間探究コース）	40	H27	0	2	0		・ 自転車競技部に所属し、選手として3年間継続して活動する意欲のある者
	十津川高校	普通科（工芸コース）	30	H27	0	0	0		・ ボート部に所属し、選手として3年間継続して活動する意欲のある者
H28				—	2	0	・ 普通科（工芸コース）に対して強い目的意識がある者		
和歌山	海南高校 美里分校	普通科	40	H17	0	0	1	・ 募集定員に対する割合 10%程度	・ 他の公立高等学校に出願しないことを証明する「証明書」を志願先の高等学校長に提出
	有田中央高校 清水分校	普通科	40	H17	0	0	0		
	日高高校 中津分校	普通科	40	H17	9	11	6		
	南部高校 龍神分校	普通科	40	H17	2	0	1	・ 募集定員に対する割合 30%程度	
	串本古座高校	普通科	120	H29	—	—	3	・ 募集定員に対する割合 5%程度（H30は10%）	

都道府県	学校名 (県立省略)	学科名	学科の 募集定員	全国募集 開始年度	県外からの志願者数等の推移			全国募集の規模	全国募集の条件
					H27	H28	H29		
島根	安来高校	普通科	160	H28	—	0	2	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内に居住している身元引受人がいること</li> </ul>
	情報科学高校	情報システム科 情報処理科 マルチメディア科	一括 120	H28	—	1	0	・ 入学定員の5%を上限	
	大東高校	普通科	120	H28	—	0	2	・ 入学定員の4%を上限	
	横田高校	普通科	120	H22	5	4	10	—	
	三刀屋高校	総合学科	160	H28	—	3	0	・ 入学定員の8%を上限	
	飯南高校	普通科	80	H25	3	12	6	—	
	邇摩高校	総合学科	120	H28	—	0	0	・ 入学定員の8%を上限	
	島根中央高校	普通科	90	H22	22	34	24	・ 入学定員の38%を上限	
	矢上高校	普通科 産業技術科	普 60 産 30	H22	13	14	18	・ 普：入学定員の30%を上限 ・ 産：入学定員の40%を上限	
	江津高校	普通科	80	H28	—	0	1	・ 入学定員の5%を上限	
	江津工業高校	機械・ロボット科 建築・電気科	各 40	H28	—	1	0	—	
	浜田商業高校	商業科 情報処理科	一括 80	H28	—	0	0	・ 入学定員の10%を上限	
	浜田水産高校	海洋技術科 食品流通科	各 40	H22	7	7	14	—	
	益田翔陽高校	電子機械科 電気科 生物環境工学科 総合学科	各 40	H28	—	10	12	—	
	吉賀高校	普通科	40	H27	2	5	8	・ 入学定員の20%を上限	
	津和野高校	普通科	80	H22	14	20	21	・ 入学定員の30%を上限	
	隠岐高校	普通科 商業科	普 60 商 30	H22	4	4	3	・ 入学定員の10%を上限	
隠岐島前高校	普通科	80	H22	24	25	25	・ 入学定員の30%を上限		
隠岐水産高校	海洋システム科 海洋生産科	各 40	H22	18	16	14	—		

都道府県	学校名 (県立省略)	学科名	学科の 募集定員	全国募集 開始年度	県外からの志願者数等の推移			全国募集の規模	全国募集の条件
					H27	H28	H29		
徳島	鳴門渦潮高校	体育科	60	H28	8	9	9	・ 募集定員の15%以内	・ 県内に居住する成人の保証人が必要
		総合学科	175	H28				・ 2人以内	
	名西高校	芸術科	45	H28	—	0	1	・ 募集定員の15%以内	
	海部高校	普通科、商業科、理数科	120	H28	1	3	1	・ 5人以内	
	那賀高校	普通科、農業科	75	H28	2	4	4		
	吉野川高校	農業科、商業科	130	H28	—	0	0		
	穴吹高校	普通科	70	H28	—	0	0		
	つるぎ高校	工業科、商業科	175	H28	—	0	0		
	城西高校 神山分校	農業科	30	H28	—	0	0		
	小松島西高校 勝浦校	農業科	40	H28	—	0	0		
	池田高校三好校	農業科	35	H28	—	0	0		
	城東高校	普通科	320	H29	—	—	0		
	小松島高校	普通科	215	H29	—	—	1		
	富岡東高校	普通科、商業科	200	H28	—	2	1		
	脇町高校	普通科	190	H28	—	2	2		
池田高校	普通科、理数科	175	H28	—	0	1			
高知	室戸高校	総合学科	80	H8	11	12	5	・ 特になし	・ 県内に居住する身元引受人がいること
	嶺北高校	普通科	80	H8	0	0	0		
	高知追手前高校 吾北分校	普通科	40	—	0	0	1		
	高知海洋高校	海洋学科	80	H8	4	2	3		
	須崎工業高校	機械系学科 造船専攻	20	H8	0	0	0		
	禰原高校	普通科	80	H8	0	0	1		

都道府県	学校名 (県立省略)	学科名	学科の 募集定員	全国募集 開始年度	県外からの志願者数等の推移			全国募集の規模	全国募集の条件
					H27	H28	H29		
高知 (つづき)	四万十高校	普通科 普通科(自然 環境コース)	80	H8	0	1	1	—	—
	中村高校 西土佐分校	普通科	40	H8	0	0	1	—	—
熊本	球磨工業高校	建築科・伝統 建築コース	20	H30	—	—	—	・ 募集人員の20%以内	・ 教育課程が、全国あるいは九州で特色のある学科・コース
	八代農業高校 泉分校	グリーンライフ科	40	H30	—	—	—	・ 募集人員の10%以内	
	菊池農業高校	畜産科学科	40	H30	—	—	—	・ 募集人員の20%以内	
鹿児島	県立	普通科を除く 専門学科及び 総合学科	学科ごと					—	・ 出願に必要な提出書類のほか、「県外公立高等学校志願についての証明書」を出願時に提出する。
	県立	該当年度の募集 定員が120人を超 えない高等学校 の普通科、熊毛・ 大島学区内の高 等学校の普通科	学科ごと	H26	10	12	9	—	・ 遠方からの入学は、下宿・寮等の受入先があることが前提
	楠隼高校	普通科	60 (H30から90)	H27	34	12	5	※H27開校	・ 全寮制
	開陽高校	普通科	120	H15	0	1	1	—	・ 遠方からの入学は、下宿・寮等の受入先があることが前提



通学区域の状況及び高校配置に関する地区割と県立高等学校等の配置

[通学区域の状況]

[通学区域]

岩手県立高等学校の通学区域に関する規程に定める区域（学区）で、高等学校に就学しようとする者は、学区内の高等学校に出願することを原則とする。ただし、特例により、学区の制限を受ける者は、全日制の課程の普通科に出願する者のみとなっている。また、全日制の課程の普通科においても、定員の10%以内で学区外からの入学を認めているが、一般入試の志願者数が募集定員を超えない場合は、学区外許容率を超えて入学を許可することができるとしている。

学区名	高等学校	学区に属する区域
盛岡学区	盛岡第一 盛岡第二 盛岡第三 盛岡第四 盛岡北 盛岡南 不来方 沼宮内 葛巻 平舘 雫石	盛岡市 花巻市のうち平成17年12月31日における稗貫郡大迫町及び同郡石鳥谷町の区域 八幡平市 滝沢市 岩手郡雫石町 岩手郡葛巻町 岩手郡岩手町 紫波郡紫波町 紫波郡矢巾町 宮古市のうち平成21年12月31日における下閉伊郡川井村の区域
岩手中部学区	花巻北 花巻南 大迫 黒沢尻北 西和賀	花巻市 北上市 遠野市のうち小友町及び平成17年9月30日における上閉伊郡宮守村の区域 紫波郡紫波町 和賀郡西和賀町
胆江学区	水沢 前沢 金ヶ崎	北上市のうち相去町 奥州市 胆沢郡金ヶ崎町 西磐井郡平泉町
両磐学区	一関第一 花泉 大東 千厩	一関市 奥州市のうち平成18年2月19日における胆沢郡衣川村の区域 西磐井郡平泉町
気仙・釜石学区	高田 大船渡 住田 釜石 遠野 大槌	大船渡市 遠野市 陸前高田市 釜石市 気仙郡住田町 上閉伊郡大槌町
宮古学区	山田 宮古 宮古北 岩泉	宮古市 下閉伊郡山田町 下閉伊郡岩泉町 下閉伊郡田野畑村
久慈学区	久慈 種市 大野	久慈市 下閉伊郡岩泉町のうち安家 下閉伊郡普代村 九戸郡洋野町 九戸郡野田村
二戸学区	軽米 伊保内 福岡	二戸市 八幡平市のうち平成17年8月31日における岩手郡安代町の区域 岩手郡葛巻町 九戸郡軽米町 九戸郡洋野町のうち平成17年12月31日における九戸郡大野村の区域 九戸郡九戸村 二戸郡一戸町

[高校配置に関する地区割と県立高等学校等の配置]

県立高等学校や学科の配置、学級数の調整を行う際の地区割（ブロック）。広域生活圏（9圏域）を基本とし、気仙・釜石学区を気仙ブロックと遠野・釜石ブロックに分割している。

学区	ブロック	ブロック内市町村	ブロック内の高等学校（平成29年度）			
			盛岡第一	盛岡第二	盛岡第三	盛岡第四
盛岡	盛岡	盛岡市	盛岡南	杜陵（定・通）	盛岡工業（全・定）	盛岡商業
			盛岡市立			
			岩手	岩手女子	盛岡白百合	江南義塾盛岡
			盛岡誠桜	盛岡大付属	盛岡スコーレ	盛岡中央（全・通）
			八幡平市	平館		
		滝沢市	盛岡北	盛岡農業		
		雫石町	雫石			
		葛巻町	葛巻			
		岩手町	沼宮内			
		紫波町	紫波総合			
		矢巾町	不来方			
岩手中部	岩手中部	花巻市	花巻北	花巻南	花巻農業	花北青雲
			大迫	花巻東		
		北上市	黒沢尻北	北上翔南	黒沢尻工業	専修大学北上
西和賀町	西和賀					
胆江	胆江	奥州市	水沢	水沢農業	水沢工業	水沢商業
			前沢	岩谷堂	杜陵奥州（定・通）	水沢第一
		金ヶ崎町	金ヶ崎			
両磐	両磐	一関市	一関第一（全・定）	一関二	一関工業	花泉
			大東	千厩	一関学院（全・通）	一関修紅
平泉町						
気仙・釜石	気仙	大船渡市	大船渡（全・定）	大船渡東		
		陸前高田市	高田			
		住田町	住田			
	釜石・遠野	釜石市	釜石（全・定）	釜石商工		
		遠野市	遠野	遠野緑峰		
大槌町	大槌					
宮古	宮古	宮古市	宮古（全・定）	宮古北	宮古工業	宮古商業
			宮古水産			
		山田町	山田			
		岩泉町	岩泉			
田野畑村						
久慈	久慈	久慈市	久慈	久慈長内（定）	久慈東	
		普代村				
		洋野町	種市	大野		
		野田村	久慈工業			
二戸	二戸	二戸市	福岡（全・定）	福岡工業		
		一戸町	一戸			
		軽米町	軽米			
		九戸村	伊保内			

※ なお、斜体は市立高校及び私立高校となります。



普通科における一般入試の学区外志願者数

※普通科（理数科を含む）

学区	学校名	H27		H28		H29		学区外最大 入学者数
		定員	一般入試学区 外志願者数	定員	一般入試学区 外志願者数	定員	一般入試学区 外志願者数	
盛岡学区	盛岡一（普通・理数）	280	37	280	33	280	34	64
	盛岡二	200	5	200	3	200	5	20
	盛岡三	280	12	280	27	280	30	28
	盛岡四	280	10	280	9	280	11	28
	盛岡北	240	5	240	9	240	6	24
	盛岡南	160	2	160	3	160	8	16
	不来方（人文・理数）	160	6	160	21	160	19	16
	沼宮内	80	0	80	1	80	0	8
	葛巻	80	7	80	5	80	18	8
	平舘	80	1	80	1	80	1	8
	雫石	80	0	80	0	80	0	8
	盛岡学区 計	1,920	85	1,920	112	1,920	132	228
岩手 中部学区	花巻北	240	15	240	13	240	23	24
	花巻南（人文・自然）	120	1	120	0	120	8	12
	大迫	40	0	40	0	40	0	4
	黒沢尻北	240	14	240	10	240	22	24
	西和賀	40	0	40	0	40	0	4
	岩手中部学区 計	680	30	680	23	680	53	68
胆江学区	水沢（普通・理数）	240	0	240	4	240	8	60
	前沢	80	5	80	3	80	0	8
	金ヶ崎	120	2	120	2	120	3	12
	胆江学区 計	440	7	440	9	440	11	80
両磐学区	一関一（普通・理数）	240	5	240	9	240	10	40
	花泉	40	0	40	0	40	0	4
	大東	120	1	120	0	120	1	12
	千厩	120	0	120	0	120	0	12
	両磐学区 計	520	6	520	9	520	11	68
気仙・ 釜石学区	高田	160	0	160	0	160	1	16
	大船渡	200	0	200	0	200	1	20
	住田	40	0	40	1	40	0	4
	釜石（普通・理数）	200	2	200	3	200	4	56
	遠野	160	3	160	13	160	10	16
	大槌	120	0	120	1	80	0	8
	気仙・釜石学区 計	880	5	880	18	840	16	120
宮古学区	山田	80	0	80	0	80	0	8
	宮古	240	1	240	1	240	0	24
	宮古北	40	2	40	1	40	0	4
	岩泉	80	2	80	0	80	0	8
	宮古学区 計	440	5	440	2	440	0	44
久慈学区	久慈	200	0	200	2	200	0	20
	種市	80	0	80	0	80	1	8
	大野	80	1	80	0	80	1	8
	久慈学区 計	360	1	360	2	360	2	36
二戸学区	軽米	80	0	80	0	80	1	8
	伊保内	80	0	80	0	40	0	4
	福岡	200	3	200	2	200	1	20
	二戸学区 計	360	3	360	2	320	2	32
総計		5,600	142	5,600	177	5,520	227	676

※ なお、ゴシックは平成29年度入試で一般入試の志願者が募集定員を超えなかった高校を示している。  
また、○数字は学区外最大入学者数を超える学区外志願者があったことを示している。

注1）普通科（学区あり）と理数科（全県1学区）を併置する学校（盛岡一、水沢、一関一、釜石）は、くくり募集（入試時点では学科を分けずに一括して募集、選抜する）を行っているため、理数科の定員（40人）に普通科の定員の10%を合計した人数が、学区外からの入学者数の上限となっているものである。

注2）平成29年度から、大槌高校は募集定員が80人、伊保内高校は募集定員が40人となっているものである。

注3）岩手県立高等学校の通学区域に関する規則の改正により、平成27年度入試から一般入試の志願者数が募集定員を超えない場合は、学区外許容率（募集定員の10%）を超えて入学を許可することができるとしている。



## 通学区域に関する全国の状況

### ○ 設定している → 22道府県

岩手、北海道、山形、福島、千葉、富山、長野、愛知、三重、京都、兵庫、島根、岡山、徳島、香川、愛媛、福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、沖縄

### ○ 設定していない → 25都府県

都府県	通学区域廃止年度	都道府県	通学区域廃止年度
青森	H17	岐阜	H30
宮城	H22	静岡	H20
秋田	H17	滋賀	H18
茨城	H18	大阪	H26
栃木	H26	奈良	H18
群馬	H19	和歌山	H15
埼玉	H16	鳥取	H19
東京	H15	広島	H18
神奈川	H17	山口	H28
新潟	H20	高知	H24
石川	H17	大分	H20
福井	H16	宮崎	H20
山梨	H19		



## 通学区域を設置していない都府県における通学区域廃止の経緯等

都府県	廃止の経緯等
青森	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 15 年 6 月、学校教育関係者からなる青森県立高等学校入学者選抜研究協議会に入学者選抜制度の在り方について検討を依頼し、その中で、通学区域について検討がなされ、平成 16 年 1 月に同協議会から、子どもたちが住んでいる地域によって制限されることなく自由に学校を選択できることが望ましいとの報告を受け、学区による出願制限を撤廃し、平成 17 年度の入学者選抜から通学区域を県下一円とした。</li> </ul>
宮城	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立高校の通学区域（学区制）の在り方について、高等学校入学者選抜審議会の答申を受け、平成 18 年 11 月から県立高等学校の通学区域の在り方について協議し、平成 19 年 3 月に、下記の理由により、審議会の答申のとおり全県一学区化とすることを決定した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の学校選択の自由が確保され、学校の活性化が期待されるなど、通学区域の撤廃によってもたらされる効果が大きいこと。</li> <li>○ 懸念事項については、地方の進学拠点校の進路実績や総合学科等の地区間志願者の動向等から考えて、その可能性が現実的には小さく、しっかりとした対策に取り組むことによって回避することが十分可能であること。</li> </ul> </li> </ul>
秋田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 17 年度入試で、生徒が希望する高校をこれまで以上にチャレンジできるように入試制度の大幅な変更をし、その一環として通学区域を廃止した。</li> </ul>
茨城	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以下の課題を踏まえ、平成 18 年度から通学区域を廃止し全県一学区とした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学生がその能力や適性、進路希望等に応じて広い範囲で学校選択を望んでも、通学区域により制限</li> <li>○ 全県一学区の単位制や総合学科等の新しいタイプの高校が増加</li> <li>○ 2 つの通学区をまたいだ市町村合併への対応が必要</li> <li>○ つくばエクスプレスの開通等による交通体系の変化への対応が必要</li> </ul> </li> </ul>
栃木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 志願者が県内のどこに住んでいても同じ条件で、できるだけ多くの高校から自由に行きたい高校を選べるようにするため、平成 26 年度に通学区域を廃止した。</li> </ul>
群馬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 12 年から 13 年に有識者による群馬県学校教育改革推進計画策定委員会を開催し、生徒の選択幅を拡大する方向で検討することが適当との報告があり、平成 14 年 2 月に策定した「高校教育改革基本方針」において、高校入学者選抜及び通学区域の見直しを行うこととした。そして、平成 17 年 3 月に、平成 19 年度入学者選抜から、全日制課程普通科の通学区域を群馬県全域とすることを決定した。</li> </ul>
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通学区域については、教育関係者や学識経験者から構成された平成 13 年の「彩の国教育改革会議」提言、平成 14 年度に県民意識調査の実施、平成 15 年の「埼玉県高等学校教育振興協議会」から「生徒・保護者の視点に立ち、自らの意志と責任において自由な学校選択が保障されることが大切であり、（全県一学区の専門学科や総合学科と同様に）全日制課程普通科の高等学校についても通学区域を設けないことが適当である。」との答申を受け、平成 16 年度入試から廃止をした。</li> </ul>
東京	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学区の見直しについては、従前からの課題を総括するものとして、平成 11 年～13 年にかけて、東京都立高等学校学区制度検討委員会において検討がなされた。その結果、生徒の学校選択幅の拡大や都立高校の特色ある学校づくりを推進するため、学区を撤廃すべきとの答申があり、これを受け、平成 15 年度入学者選抜から学区を撤廃することとした（撤廃前は、区部 6、多摩地区 3、島しょ地区 1 の合計 10 の学区を設定していた。）。</li> </ul>

都府県	廃止の経緯等
神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> <li>本県の県立高等学校入学者選抜制度では、過去に学区を設けていましたが、本県が平成13年4月に設置した「入学者選抜制度・学区検討協議会」において、「学区については特色ある高校の選択幅を拡大する視点から、一人ひとりの個を生かし、高校の選択幅をより一層拡大することができ、また、住んでいる地域によって規制を受けることなく、高校選択の量的均等・質的均等を図ることができるよう、学区を撤廃することが望ましい」との報告が平成15年2月にあり、平成17年度の入学者選抜から学区を撤廃しました。</li> </ul>
新潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年4月入学者から通学区域の廃止を行った。（県立学校条例の変更 平成19年2月議会）</li> <li>市町村合併などによる生活圏域の変化や通学手段等の変化から、生徒の通学可能な範囲が広がったことなどから、より希望や能力に応じて、主体的な学校選択を可能とした。</li> </ul>
石川	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成15年9月「県立高等学校の学区制の在り方検討会」設置。通学区域の現状と課題、学区制の在り方について検討がなされ、「教育の機会均等上から学区制を廃止すべきである」とのまとめが出された。平成16年2月「石川の学校教育推進会議」において、「生徒の学校選択幅を拡大するとともに選ばれるための活力ある学校づくりに繋がるという意味で、高等学校の学区制を全県一区にする」とのまとめが出された。PTAとの意見交換会や中学校、高校長からの意見聴取などを踏まえ、平成17年4月より県立高等学校の通学区域を廃止。</li> </ul>
福井	<ul style="list-style-type: none"> <li>福井県教育委員会の諮問を受け、平成14年8月の福井県高等学校教育問題協議会において、「生徒の進路についての選択可能性を拡大するため、学校群制度を廃止するとともに普通科・理数科の学区は全県一円とする。」という答申が出された。見直しに伴う準備と周知のため、平成16年度入学者選抜から学校群制度を廃止し、通学区域を全県一円とした。</li> </ul>
山梨	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年まで普通高校には通学区域を設定し、小学区・総合選抜制度を実施していた。公立高校の通学区域の弾力化や、教育の個性化・多様化を進める国の方針を受け、中学生及び高校生とその保護者、また中学・高校の教員を対象に「通学区域等に関するアンケート」を実施したところ、見直しを望む回答が7割に及んだ。こういった経緯を踏まえ、小学区・総合選抜制度を廃止し平成19年度入試から全県一学区とした。</li> </ul>
岐阜	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年制普通科については、平成29年度入試までは、県内を6学区に分けた通学区域を設けていたが、平成30年度入試から撤廃した。なお、専門学科、総合学科、単位制普通科の高校は、従来から通学区域の制限はなく全県一区である。</li> </ul>
静岡	<p>(1) 平成14年度以前の入学者選抜制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全日制課程普通科 → 隣接学区から募集定員の10%以内で入学を許可</li> <li>○ 専門教育を主とする学科、総合学科、定時制の課程、通信制の課程 → 県内全域から志願可</li> </ul> <p>(2) 平成15年度～平成19年度の入学者選抜制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全日制課程普通科 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期選抜 → 県内全域から志願可</li> <li>・ 後期選抜 → 隣接学区から志願可</li> </ul> </li> <li>○ 専門教育を主とする学科、総合学科、定時制の課程、通信制の課程 → 県内全域から志願可</li> </ul>

都府県	廃止の経緯等
静岡 (つづき)	<p>(3) 平成 20 年度以降の入学者選抜制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全日制の課程（普通科、専門教育を主とする学科、総合学科） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般選抜 → 県内全域から志願可</li> <li>・ 特別選抜（海外帰国生徒選抜、外国人生徒選抜、長期欠席生徒選抜） → 県内全域から志願可</li> <li>・ 特別選抜（連携型選抜） → 連携型中高一貫教育実施校における連携型中学校からの受検者対象</li> </ul> </li> <li>○ 定時制の課程、通信制の課程 → 県内全域から志願可</li> </ul>
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民生活圏の拡大や交通事情の改善など、高校選択をとりまく社会経済状況が大きく変化するとともに、平成 13 年の法改正で公立高等学校の通学区域を定める規定が削除されたことも受け、平成 15 年 6 月に県立高等学校通学区域制度検討委員会を設置し、通学区域に対する県民意識調査を踏まえて検討を行った結果、平成 18 年度の入学者から全県一区とした。</li> </ul>
大阪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校教育の機会均等を図るため、本府の地域社会の実情を踏まえ、平成 19 年度より通学区域は 9 学区から 4 学区に改編した。その後、通学区域を撤廃することで、すべての中学生がより自由に学校選択できる環境を作ってもらいたいという府民の要望と、各高校が一層切磋琢磨し、教育内容の改善を図ることにより大阪府全体の高校教育が向上していくとの考えから、平成 26 年度から通学区域を府内全域とした。</li> </ul>
奈良	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法律で高等学校の通学区域の指定が定められていたが平成 14 年に削除され、通学区域の設定は教育委員会の判断に委ねられることになり、平成 18 年度から通学区域を県内全域とした。</li> </ul>
和歌山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 15 年度 和歌山県立高等学校通学区域に関する規則を廃止 &lt;主な理由&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校進学率が 97%を超え、高校教育の普及と機会均等をほぼ達成した。</li> <li>・ 募集定員に占める全県一区の割合が 50%を上回っていた。（全県一区の学科が 50%以上となった。）</li> <li>・ 生徒の選択幅の拡大と高校の特色化を図るため。</li> </ul> </li> </ul>
鳥取	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従来、県立高等学校の全日制課程普通学科には 3 つの通学区域を設定していたが、各学校の特色化の進行に合わせて中学生の選択幅の拡大を図る必要があることや、一部の中学校で存在する通学区域の不均衡を解消する必要があることなどから、平成 19 年度から全日制課程普通学科の通学区域を県全域とする見直しを行った。 &lt;背景・理由&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通学科各校の特色づくりに対応し、中学生の学校選択幅を拡大する必要があった</li> <li>・ 平成 16 年度からの市町村合併に伴う市町域の拡大により、同一市町内の中学校であっても通学区域が異なる状況が生じた</li> <li>・ 同一中学校に在籍する生徒であっても、居住地により通学区域が異なる現状があった</li> <li>・ 専門学科および総合学科の通学区域はすでに県全域化されていた（専門学科については昭和 41 年から、総合学科については平成 10 年から実施）</li> </ul> </li> </ul>

都府県	廃止の経緯等
広島	<ul style="list-style-type: none"> <li>従前は通学区域を15学区としていたところ、平成13年10月の「広島県高校教育改革推進協議会」答申において、今後の通学区域のあるべき姿は「全県一円」であるが、直ちに全県一円とすることについては生徒・保護者や中学校の進路指導等に大きな影響を与えるため、生活圏域や交通事情等に配慮しながら拡大していくことが適当であると提言されたことを踏まえ、平成15年度入試から、15学区から6学区へ通学区域の拡大を行った。その後、さらに生徒がその個性と能力によって学校を選択できるようにするため、平成18年度入試から、通学区域を全県一円としているところである。</li> </ul>
山口	<ul style="list-style-type: none"> <li>全日制課程普通科の通学区域については、平成14年度に、複数の特色ある高校を含む適度な広さの確保、通学区域における地域間格差の是正の観点から、26通学区域を7通学区域に変更（学区外志願枠5%）し、平成21年度に、学区外志願枠を10%に拡大して、平成28年度に、中学生の主体的な学校選択をさらに促すため、県内全域とした。 （参考） 職業学科（商業を除く）は昭和41年度から、商業科は昭和42年度から通学区域を県内全域としている。</li> </ul>
高知	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和38年4月 高知県立高等学校の通学区域に関する規則により、高知、東部、高吾、西部の4学区が設置される。</li> <li>平成22年度入試 東部、高吾、西部の3学区の撤廃。高知学区は区外枠10%以内を15%以内に拡大。</li> <li>平成23年度入試 高知学区の区外枠15%以内を20%以内に拡大。</li> <li>平成24年度入試 高知学区の撤廃。</li> </ul>
大分	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校教育改革推進計画の実施に伴い、平成20年度入試から全日制課程普通科の通学区域制度を廃止して、全県1区とした。多様化する生徒一人ひとりのニーズに対応し、生徒の学校選択の自由を拡大し、自ら学ぶ意欲を育むとともに、自分にあった学校を主体的に選択できるよう、選択の幅を広げることなどを方向性としたもの。</li> </ul>
宮崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成13年度～17年度にかけて、外部有識者等から構成される「宮崎県教育改革推進協議会」において、県立普通科高校の通学区域の見直し等について検討がなされ、同協議会から「通学区域を撤廃することにより、中学生の学校選択の自由が拡大され、主体的な高校選択が可能となり、中学生の進路意識や学習意欲を高めることができることや、普通科高校の今まで以上の特色化や活性化が期待されるので、できるだけ早期に撤廃することが望ましい。そのため、普通科高校においては、より一層の特色づくりやそのPR、地域との連携を推進する必要がある。」等の報告があった。これらの意見を踏まえ、平成17年度に記者発表、平成20年度から通学区域を撤廃し、現在に至る。</li> </ul>



## 通学区域を設置していない都府県における通学区域廃止の影響

都府県（廃止年度）	廃止の影響（入学志願者の動向等）
茨城（H18）	<ul style="list-style-type: none"> <li>撤廃当初はなかったが、現在、高校の二極化への影響は否めない。</li> </ul>
神奈川（H17）	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学志願者の動向については、学区が撤廃される直前の平成 16 年度入学者選抜において、学区外の県立高等学校を受検した者の割合は 14.8%でしたが、学区が撤廃された直後の平成 17 年度において、旧学区外の県立高等学校を受検した者の割合は 29.3%となりました。その後、旧学区外の県立高等学校を受検した者の割合は平成 26 年度入学者選抜まで増加し続け、平成 26 年度には旧学区外の県立高等学校を受検した者の割合は 51.2%となりました。また、平成 28 年度においては 50.3%となっています。</li> </ul>
福井（H16）	<ul style="list-style-type: none"> <li>学区が全県一円となり、受験生の福井市への流入が増えている。</li> </ul>
山梨（H19）	<ul style="list-style-type: none"> <li>全県一学区になったことから、受験生は希望する高校へ制限なく出願が可能となった。各高校は生徒獲得のため、学校の魅力化を図る取り組みにより一層力を入れるようになった。受験生の傾向とすると、県中心部（甲府市内）の高校を目指す生徒が増えた。</li> </ul>
滋賀（H18）	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 18 年度の入学者以降、新たに受検が可能となった高校への進学者は、普通科進学者の 5%～8%となっている。</li> </ul>
大阪（H26）	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧の通学区域の境にある高等学校において、旧の通学区域外からの志願者の割合が高まった。また、交通の便の良い高等学校に、志願者が集まる傾向がある。</li> </ul>
大分（H20）	<ul style="list-style-type: none"> <li>一次入試での旧通学区域外からの大分市内県立普通科高校への流入割合は、全県一区導入前に認めていた制限枠よりも低い。</li> </ul>

※ 上記以外については、平成 30 年度から導入する県を除き、「学区を見直したことによる大きな影響等はなかった」といった内容の回答であった。



# 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート

## I アンケート調査の概要

### 1 調査の目的

本調査は、県外からの志願者の受入れと通学区域（学区）についての考えを把握するために実施し、県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議における検討の参考に資することを目的とする。

### 2 実施時期

平成 29 年 8 月 17 日（木）～9 月 8 日（金）

### 3 調査の内容

県外からの志願者の受入れ及び通学区域のあり方等

### 4 調査の対象

- (1) 県内全ての公立中学校長、義務教育学校長、県立高等学校長
- (2) 県内全ての公立中学校、義務教育学校及び県立高等学校の P T A 会長

### 5 送付書類

- (1) 対象者へ県教委からアンケート用紙、回答用紙を送付
- (2) アンケート実施後、回答用紙を県教委へ送付
- (3) 県教委で集計・分析

### 6 回答用紙の提出について

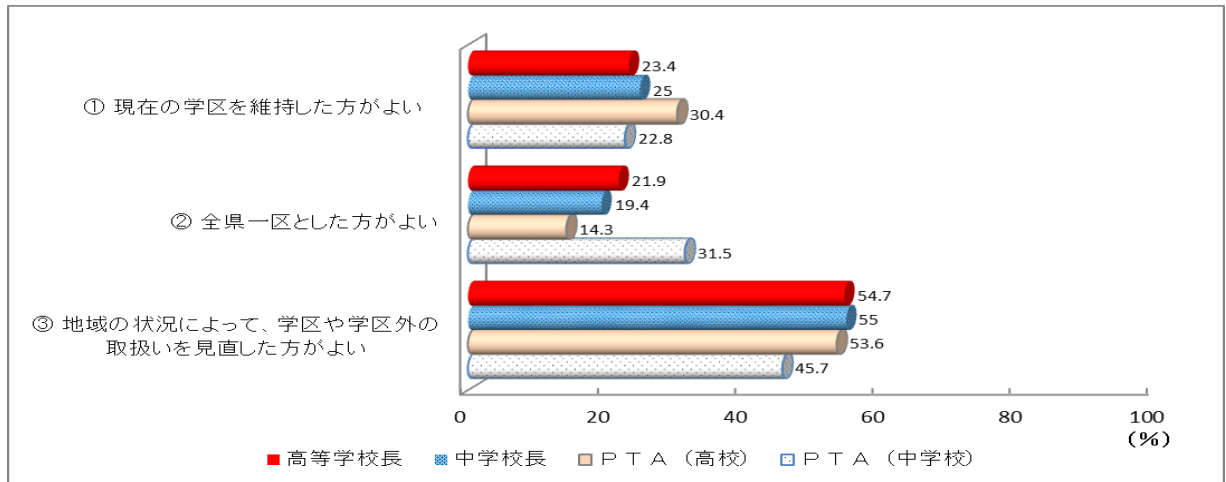
	対象者数	回収数	回収率
県立高等学校長	64	64	100.0%
公立中学校長	160	160	100.0%
P T A 会長（高校）	64	57	89.1%
P T A 会長（中学校）	161	126	78.3%
県全体	449	407	90.6%

## Ⅱ アンケート結果

※ 県外からの志願者の受入れに関するアンケート結果については、平成29年11月8日（水）に開催した、県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議（第2回）で説明し意見をいただきました。

### [通学区域（学区）について]

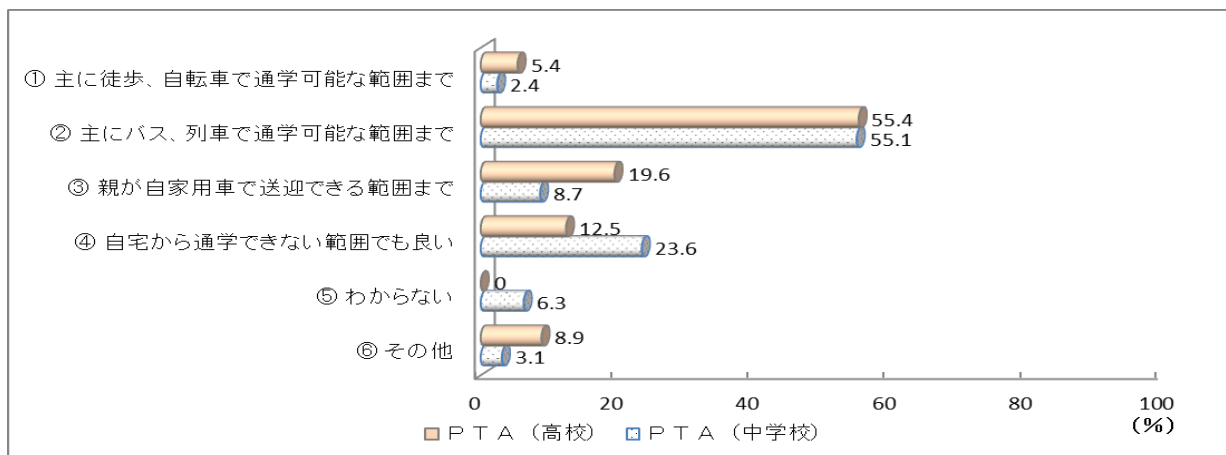
質問⑦ 現在、全日制課程普通科（一部の学系、コースを除く）に設けている学区について、どのように考えますか。①～③の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（全員回答）



すべての対象において、「③地域の状況によって、学区や学区外の取扱いを見直した方がよい」が多く、具体的には内陸部以外の高校の生徒募集に配慮が必要とする考えが多い。

P T A（中学校）では、「②全県一区とした方がよい」も30%以上となっており、理由としては公平な高校選択の機会を望むこと等がある。

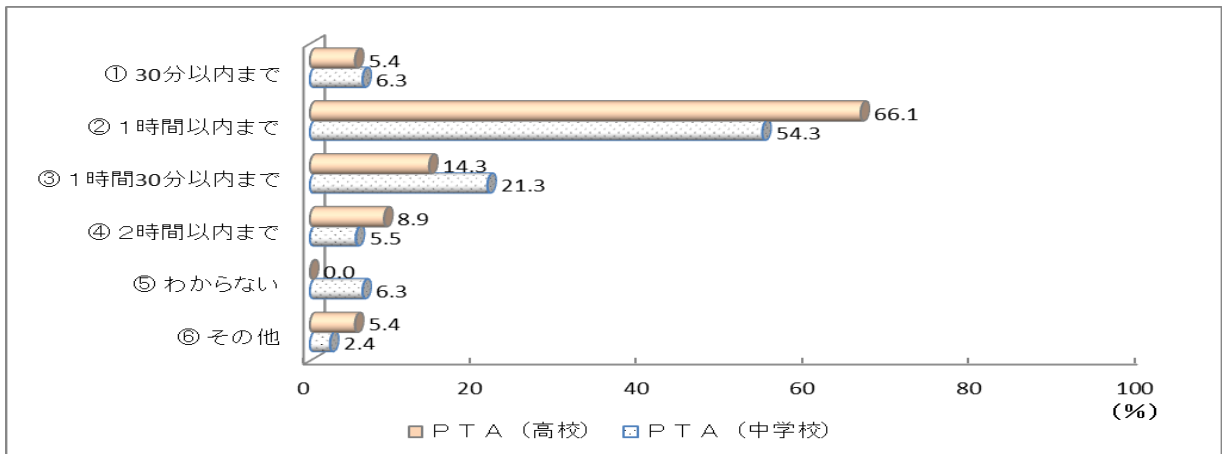
質問⑧ 高校への通学の範囲について、どの程度までが良いと考えますか。①～⑥の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（P T A会長）



高校・中学校のP T Aともに、「②主にバス、列車で通学可能な範囲まで」と回答する割合が大きく、公共交通機関で通学できる範囲と考えている。

中学校のP T Aでは、「④自宅から通学できない範囲でもよい」が23.6%であり、子どもが希望する高校への進学を優先する考えが多い。

質問⑨ 通学（片道）にかけても良いと思う時間をどの程度までと考えますか。①～⑥の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（PTA会長）



高校・中学校のPTAともに、「②1時間以内まで」の割合が大きく、半数以上を占めている。